

第671回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2025年3月度 ——

◇ 議題

<テレビ番組>

「羽鳥×指原 ご当地！推しメシツアー

それ東京でも食べられますけど！」

放送日：2月16日(日)午後1時55分～3時20分

◇ その他

2025年3月17日(月)開催

九州朝日放送株式会社

第671回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2025年3月17日(月) 15時25分～16時25分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 5名

委員長	上野 恵梨奈
副委員長	山根 久資
委員	サーズ 恵美子
委員	小柳 美佳
委員	林田 真心子

欠席委員数 3名

委員	副田 智幸
委員	森 慎二
委員	泗水 康信

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森 君夫
取締役 報道制作局長	大迫 順平
執行役員 総合編成局長	柴田 高宏
報道制作局コンテンツ戦略部長	山田 利宣
報道制作局コンテンツ戦略部 プロデューサー	北島 泰洋
番組審議会事務局長兼広報室長	吉岡 実
番組審議会事務局(広報室)	松永 俊郎

4. 議題

- (1) テレビ番組「羽鳥×指原 ご当地！推しメシツアー それ東京でも食べられますけど！」
放送日時：2月16日(日)午後1時55分～3時20分
- (2) 3月・4月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 2月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 単なるグルメ番組ではなく、ゲストの人生を紹介することで人間味あふれる番組になっていた。ゲストが地元をととても大事にしていることが伝わった。
- 単に東京のお店紹介にとどまらず、各地の文化を感じることができるのも魅力的だった。「推しメシ」をゲストと一緒に紹介することで、味だけではない食の魅力を感じた。
- グルメ番組でありながら、ゲストに影響を与えた人物が登場するという構成により、ゲストの素顔を見ることができた。とても新鮮でドラマ性を感じた。
- ゲストの人生の振り返りとお店の情報、系列局の東京支社員によるグルメ情報のバランスがちょうどよかった。3部構成の内容と時間が上手に配分されていて見やすかった。
- 食材や料理がとても美味しそうに撮影されていた。食りポ中にも調理の工程や料理のインサート映像があり、料理の魅力が存分に伝わった。グルメにひかれて現地を訪れたいくなった。
- 故郷を思い出し、思いをはせることができた。自分も各地を旅しているかのような感覚があった。
- 系列局の東京支社員が選ぶ「ご当地メシ」は東京在住の友人に紹介したいと思えるほど充実していた。各局の紹介も非常にうまかった。
- 羽鳥慎一さんと指原莉乃さん、KBC 宮本啓丞アナウンサーの組み合わせはテンポがよく、バランスもよかった。出すぎることなく、ゲストやお店を紹介していた。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 「福岡色」が抑えられているように感じた。KBCが東京のお店を紹介する意図が知りたい。
- 板谷由夏さんのエピソードが番組の前後半に大きく分けられていたことに違和感を覚えた。
- 板谷さんの元カレが出てくるのではないかと演出は脅かしているかのように感じた。
- どうして秋田県と富山県の料理が紹介されたのか理由が分かりづらかった。
- 「美味しい」ではなく「うまい」が連発されていることに違和感を抱いた。
- 食卓にたくさんカメラが置かれていたのが映り込んでいて残念に感じた。
- サイドスーパーの文字が小さくて読みにくかった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 年に一度、全国ネットで放送している本作は、今回で4作目。コロナ禍に始まった。東京で味わうことができる各地の味を紹介し、ふるさとの良さや味を伝えている。
- 福岡はグルメ大国。全国放送だからといって遠慮せず、シンプルに福岡のグルメ情報をお届けすれば、自然に「福岡色」の演出になると思っている。
- **KBC** は人物を描くということに長けている。人間模様とグルメ情報を掛け合わせることで、ありそうでなかった番組を制作できたと自負している。
- コロナが収束したいま、**KBC** が東京のお店を紹介するコンセプトは再考が必要だが、羽鳥さんと宮本アナウンサーの組み合わせは評価が高い。ぜひ番組を継続したいと思っている。
- 視聴者にワクワクしながら番組を見てもらおうと、板谷さんのエピソードを前後半で大きく分けたが、ストレスを感じた人がいたかもしれない。
- 板谷さんの俳優以外の魅力を引き出せば、もっと視聴者をひきつけることができると考えたが、結果的にバラエティーに寄り過ぎているように見えた場面もあったかもしれない。
- 秋田県と富山県はゲストありきで決めた。描きたい人物の出身地のグルメをお届けした。
- 「うまい」という表現は、人物を描くことに主眼を置いたから。ゲストが発した表現をそのまま使用した。人となり分かるように、自然に出た言葉を大切にしたい。
- 出演者の表情やコメントを撮りこぼさないように多数のカメラを設置したが、不快に感じる人もいると思う。自然に隠すなどして違和感を抱かせないように工夫したい。
- サイドスーパーには番組を途中から見た人に内容を理解してもらおう役割がある。文字が小さいという指摘は今後、改善を図る。
- 実際にはなかなか行く機会がない地方のグルメを扱う番組なので視聴率は高くないが、ゲストの人間模様を描くことにより、少しでも視聴者の関心を得られるように工夫している。

などの説明をしました。